

羅針盤

KANSAI GAIDAI KYOSHOKU JOURNAL

教職を目指す学生・卒業生のために

COMPASS

第 113 号 2016.3.12(土) 発行

関西外国語大学
教職教育センター

SCET

ご卒業おめでとうございます

教職教育センター 所長 角野茂樹

4 回生のみなさん、ご卒業おめでとうございます。

私たち教職員にとっても、皆さんが巣立っていくことに感慨深いこの春を迎えています。

2012 年、1 回生の時に「教職概論」で出会った志し高き青年、2 回生の「教育制度概論」で教育制度の現実と矛盾への葛藤、3 回生の「生徒指導論」で児童生徒が直面する教育問題に向き合いグループ討議での白熱した議論を思い出します。また、夜スペシャルで教育時事に真摯に向き合い自らの解を求めている姿、さらには教採合宿で、先輩教員にサポートされ教員としての意欲を高め、夏のサマースペシャルでは、堂々と模擬授業を披露していた姿はたくましく映っていました。どれも昨日のことのように覚えています。

教職の世界に飛び込んでいく皆さんにとっては、これまでの経験や学びの成果をもって学校現場という生身の児童生徒と向き合う場で「職業」として実践していくこととなります。きっと喜びと不安が入り混じりながらも、やる気に燃えていることでしょう。

今、学校現場では、児童生徒に寄り添い使命感と情熱にあふれる若い教師に対する期待が大きいです。教材研究をしっかりと授業に向き合い生徒の持てるチカラと自らの指導力を引き出してください。日々の積み重ねが少しずつ教師としての力量を高めていくことになるでしょう。

教育の世界に「変容」という言葉があります。この言葉の意味は、教師の熱のこもった継続的な指導によって「子どもの内面に変化」をもたらし、「子ども自らが自律しようとする姿」の表れを受け留めることができるようになるということです。その時、教師は指導者となります。

4 月 1 日は、教師になる目的を実現しようとするスタートの日です。どんな教師になるのか、教師になって何をしたいのかを今一度思い起こし、自らの人生のロードマップを描き自己実現へとひたすら走り続けてください。

卒業する皆さんへのメッセージ

関西外国語大学を巣立つ皆さんに向けて、メッセージをいただきました。先生方からの言葉を大切にして、新たなるステージで活躍されることを期待します。また、本学では毎年、「OB・OG教員の集い」を行っています。その時は、皆さん、明るく元気な顔を見せてください。

卒業おめでとうございます

英語キャリア学部 教授 小寺正一

これからの時代には、基礎的・基本的な知識や技能の習得と、自分で進んで学び考え課題に取り組み力の育成の両方を総合的に展開することが求められています。習得型の教育と探究型の教育の総合です。

皆さんが関西外大で学ばれたことを活用すれば、現代のこの教育課題に真正面から取り組める先生として活躍できるはずです。大学での授業に加えて、教職につながる多様なボランティア活動での体験で得たことを活用してください。

また、日本の教育にとって、グローバル人材の育成も重要な課題となっています。モノの国際化から人の国際化です。グローバルに活躍する力の育成というこの課題に取り組むには、皆さんは関西外大で学ばれたので、非常に有意義な経験をお持ちのはずです。

日々の生活でも、与えられるものだけに満足せずに、必要な情報を集め、それらを使いこなして、社会のありようをしっかりと見極め、主体的・意欲的に活躍して下さい。

そして、健康にも留意し、人とのつながりも大切にしながら有意義な生活に入っていけることを願っています。

「未来へ向かって」

英語キャリア学部 教授 岡澤潤次

皆さん ご卒業、誠におめでとうございます。

親として一番大切なことは、子どもに何を言うかではありません。子どもと一緒に何をするかです。親の価値観は、行動によって子どもに伝わるのです。毎日の暮らしのなかで、親がどんなふうに子どもに接し、どんな生き方をしているか。それが子どもの生涯の手本となり、子ども自身が親となったとき、ものを言うのです。親が愛情をもって子どもを育てれば、その愛の行為は、世代から世代へと確実に受け継がれていきます。

子どもを励まし、許し、褒めること。子どもを受けとめ、肯定し、認めること。誠実と優しさと思いやり、身をもって示すことが親の役目です。

子どもは皆、素晴らしい存在です。その素晴らしさをどのように伸ばすかは、わたしたち大人次第なのです。わたしたちの未来を背負った、わたしたちすべての子どもたちなのです。地球上のすべての人々が人間という家族になれる未来。そんな未来を子どもたちに授けることができるように、わたしたちは、できるだけのことをしたいと思います。

わたしたち大人が子どもを導けば、子どもは、この世の中はいいところだ、自分も頑張って生きてゆこうと思えるようになるのです。

以上は、世界中で大ベストセラーとなった、ドロシー・ロー・ノルト著「子どもが育つ魔法の言葉 (Children Learn What They Live)」の話題の詩『子は親の鏡』から一部抜粋したものです。親をわたしたち教師にあてはめて考えてみてはいかがでしょうか。大変示唆に富む深い意味が伝わってきます。

これからの皆さんに響き、ますます活躍されることを祈っています。

「卒業していく皆さんに期待をこめて」

英語キャリア学部 教授 渡邊一郎

ご卒業おめでとうございます。いよいよ教員として、小さいけれど偉大な一步を踏み出そうとしている皆さんに心から激励の拍手をおくります。

よく言われる慣用句で“失敗を恐れず”とか“失敗は宝の山”とか、要は、二の足を踏んで思い切って一步踏み出せないで後悔することがないようにとか、万一失敗した場合でも、くよくよしないで、これを糧にしてひと回り大きくなれるのだからとか、前向きに、積極的に取り組むことの大切さを説いているのを耳にするでしょう。これはこれで一面の真理を表現していますし、将来、皆さんも心掛けておくべき態度となるでしょう。

しかし、教育では、やり直しは大変手間が掛かりますし、下手をすれば取り返しのつかないこともありえますから、最初は慎重の上にも慎重な態度で臨むことを勧めます。最初から一人前として振る舞うことが求められますが、謙虚に（K）、慎重に（S）、しかし着実に（T）に、を信条として教育財産をしっかり蓄えて欲しいと思います。その結果として、不惑の域に達することをめざしてください。

教育の世界の荒波に果敢に乗り出して行こうとしている皆さんの前途に幸多からんことを祈り、限りなき精進を期待したいと思います。

卒業されるみなさんへ、そして在学生のみなさんへ

外国語学部教授 並松 善秋

4月から晴れて英語科教員になる人、捲土重来を期して教員の道をめざす人、教員志望の在学生、みなそれぞれに、今の時代に教員に求められている英語力・コミュニケーション力を十分に身に付けると同時に、英検準1級以上取得や TOEFL (iBT)、TOEIC の高得点をできるだけ早い機会に獲得していただきたいと思います。英語教師の世界に入る「パスポート」として「資格・検定試験」が扱われているなか、早々と最低限の関門は通過して、自分が理想とする英語教育実践や種々の教育活動のために、持てる力を注ぐことを勧めします。教師の力量は必ずしもすべてが目に見える形で短期的に評価できるものではありません。さまざまな経験を経て、試練を乗り越えた教師の姿は、必ず生徒の心の奥深くに焼き付きます。英語力をも十分に蓄えて、生徒や児童たちに堂々とぶつかっていききたいものです。途中少々の困難に出会うことがあっても、実に「やりがいのある仕事」です。

関西外大の誇りの一つは、日本中に多数の（英語科）教員を輩出していることです。教師には常に研鑽が必要です。これは生涯を通じて求められます。勇気をもってわが国の「英語教育改善」の先頭に立って欲しいと思います。先輩、同輩、後輩たちが心を合わせ、手をつなぎ、それぞれの教育の場で、共に前進していただきたいと願っています。

「誠実に、継続」。その前提に「健康のために時々リラックス」。・・・私からみなさんに「贈る言葉」です。卒業生、在学生を問わず、悩んだ時には、遠慮せず早めに関西外大教職教育センターの先生に連絡・相談してください。卒業生の方々には、「おめでとう」、「ありがとう」と申しあげます。私は、私事都合により今月末で11年間通った関西外大を退職します。真摯に学び、目標に向かおうと努力する数多くの外大生と触れ合えたこと、その学生たちの目標成就のために力を尽くそうと努めた同僚教員・職員の協働を誇りに思います。

みなさん、ありがとうございました。ごきげんよう。

「おめでとう！ 春から教員になる みなさんへ！」

短期大学部 教授 明石一朗

厳しい教員採用選考試験を突破し、今春から教員になる学生のみなさん！

おめでとうございます。あと1ヶ月もすれば、子どもたちや保護者・地域の人々、学校の教職員の方々との新しい出会いが待っていますね。

そこで、教員に求められる基本的資質とは何かについて考えたいと思います。

それは、まず、何をにおいても「子どもが好き」ということではないでしょうか。もちろん、「好き」なだけでは、教育の仕事は務まりません。しかし、「子どもが好き」という愛情が出発ではないかと思うのです。毎朝、胸弾ませて教室に行くのが教員です。一人ひとりの子どもたちとの「出会い」を大切にしてください。

「先生！」と呼ばれて振り返ると、そこには子どもの笑顔が……。その喜びに突き動かされ、毎日働く。子どもとの出会いやふれあいにやりがいを持ち、子どもの無限の可能性を伸ばす仕事は教育の仕事です。

子どもが好きな先生は、「明るく元気で、厳しくもあり優しく、公平で、知的な先生」です。子どもの心を引きつける先生に共通しているのは、明るく元気でよく動き、気持ちが安定していて、子どもの声や所作にアンテナ高く、「あとでね」を言わないことでしょうか。授業の忙しい合間をぬって、運動場で一緒に遊んだり、始業前の時間や放課後などに子どもたちと何気ない会話に興じている先生もそうです。一言で言えば「授業がうまくて、人間味にあふれる先生」です。

みなさんが着任する学校現場は、今までの良き伝統を継承させながら、新しい教育課題にチャレンジして発展させていく「変革の時代」を迎えています。

教員は、その使命感と情熱・専門性に加えて、人権意識の高い人間性が求められています。これからの教育は、新採の先生方と受け入れる学校の職員や組織体制の有り様にかかっています。子どもにとって、最大の学習環境は先生の存在なのです。先生の好奇心と探究心が子どもの夢や将来の目標を育みます。

私たち大学教員は、本学で教職課程を終え、教員になったみなさんのことを誇りに思います。これから続く後輩のためにも「良きモデル」として益々活躍されることを期待しています。みなさんの学校現場からの声を楽しみにしています。

Congratulations on Graduation!

*Be always passionate about
what you would seem to be!*

常に自分らしく、燃え続ける人であってほしい！

(Professor) Takahiko Nishimura

“Be what you would seem to be!” This phrase was in one of the situation in a movie. And I will add three words and I will give my message for you today. “Be always passionate about what you would seem to be!” In any situation you should try “Student Centered Teaching” passionately. In



February I visited Simon Fraser University in Vancouver and took part in “Active Learning Lesson” as a guest speaker. Developing your active learning methodology makes your lesson successful in school. I met Dr. Charles Bingham who is a TED speaker and wrote the book, “No education without Relation” You should make much of human relations in

education. Every human action needs brainstorming and image training; what I call “Visualizing”. Keep positive images in your life. Always give positive questions and expectations to yourself, and you can envision your success. These actions improve your willpower for everything in your life. Lastly I will give my message again “Be always passionate about what you would seem to be!” “Don’t be afraid of making mistakes!” Keep my messages in your heart and go for it! Congratulations!

卒業生からのメッセージ

卒業する4年生からの在学生のみなさんへのメッセージです。本来は、もっと多くの卒業生の言葉を頂きたかったのですが、紙面の関係上、限られた方となってしまいました。在学生の皆さんも負けないように各々の目標に向かって、前を向いてしっかりがんばりましょう。

八木 千春 さん

奈良県/千葉県 中学校 英語科

合格

英語キャリア学部 4年生

関西外大での4年間の大学生活に悔いはありません。4年間を通して、たくさんの人と深く関わることができました。卒業されてからもご飯に連れて行ってくれる先輩方、離れるのが本当に寂しい同期、こんな私についてきてくれたかわいい後輩たち。他にも、先生方からは多くのことを学ばせていただき、教職教育センターの職員のみなさんには私の保護者のように色々な話を聞いてくださいました。こんなに幸せな場所から出ていくのはとてもつらいです。

思い返せば、私の大学生活は『教職まみれ』でした。一年生の6月から先輩に誘われたいきいき事業、教職自主ゼミを始めて、夏にはサマーセミナー、二年生もいきいきして、三年生はサマセミして、教育を学ぶためフィンランドに留学し、帰国後もいきいきや、不登校支援をしながら、教員採用試験を受験して…。冒頭に、大学生活に悔いはないと書きましたが、教職から離れた世界を見ておけば良かったと、少しだけ、後悔しています。なので、最近、NHKの「プロフェッショナル 仕事の流儀」や「情熱大陸」を毎週録画して観始めました。もし、これを読んでくれている後輩の皆さんで、教職にまみれている人は、一度、教職から離れてみるのもありかもしれません。教職のボランティア以外のことを始めてみたり、塾講師や家庭教師以外のアルバイトを始めてみたりするのもいいと思います。将来、教員になって出会う子どもたちは、全員が教職に進むわけではないはず。色々な世界に飛び立つ子どもたちのためにも、教員は多くのことに興味を持ち、視野を広く持つべきだと私はおもいます。そんな先生のほうがきっとたくさんの『引き出し』を持っていて、魅力的ですよ。私もそんな先生になりたいです。

だらだらと書きましたが、最後に私の好きな言葉を紹介します。“Anyone can be cool, but AWESOME takes practice.” この文の私なりの解釈としては、「誰でもそこそこのレベルまではいける。でも、最高になるためにはそれ以上の訓練が必要だ。」だと思いました。私は、そこそこの教員になんてならないように、常に向上心を持って、4月からの教員生活に臨んでいきます。後輩の皆さんも頑張ってください。

青川 敏也 さん

大阪府/東京都 高校 英語科
合格
外国語学部 4年生

「お前なんて教師になれない。」からの出発

皆さん、こんにちは。英米語学科4回生の青川敏也と申します。この度、大阪府、東京都から合格をいただくことができました。まず初めに、この場を借りて角野先生を初めとする教職の先生方、センターの職員の方々、そして共に切磋琢磨し喜怒哀楽を分かち合った友人達に感謝します。今後教員採用試験を受験する皆さんの力に少しでもなればと、私なりのアドバイスを3つさせてもらいます。

「あなたの付加価値は？」

まず題名を見て、「何を言っているんだ。」と皆さんお思いになったでしょう。これは私が高校2年の時に担任に三者懇談で言われた一言です。私は全くと言っていいほど勉強せずに高校時代を過ごしました。英語力のない君に自分の子どもを教えて欲しいとは思わないから勉強するか、素直に諦めるかにしなさいと言われてしまいました。英語ができない英語教師ほど魅力のないものはありません。第112号羅針盤にて小長希美さんが「付加価値」の大切さを述べていますが、私も今後教採を受験する皆さんへのアドバイスとして英語力の増強、すなわち外大生としての「付加価値」を高めることを挙げます。その「付加価値」がきっと土壇場で生きてくるはずです。

「環境を最大限利用する」

関西外大ほど教師を志すために適した場所はありません。教えを請えば必ず全力で助けてくれる教職の先生方、影でサポートしてくれる教職教育センター職員の方々、そしてクーラーが効いているICCの教室。特に先生方は、質問をしに行くと「忙しいから後にして。」とは絶対に言いません。少し言い方は悪いですが、それらを最大限利用し、自分を高める糧としてください。

「良いと思うところは盗め」

私自身勉強は1人でするものであり、人と何かを学ぶのは効率が悪いとさえ留学から帰国した当初は思っていました。しかし、その考えは全くの間違いであり、自主ゼミ「合格アルパカ」のメンバーを初めとする仲間と毎日勉強できていなかったら合格できていなかったと言っても過言ではありません。仲間一人ひとりの良いなと思う所を盗み、自分の物にしてください。特に面接で良いなと思うフレーズなどがあればそれを盗み、自分の言葉にアレンジしましょう。教採面接ノートを作り、それらを書き残しておくことが大切です。

最後になりましたが、「お前なんて教師になれない。」と言われた私でも教採に受かることができたのは、徹底的に自分の英語力を磨き自分の付加価値を高められたこと、周りの環境を最大限利用できたこと、そして仲間と共に日々成長できたことのおかげです。これから教採を受ける皆さんも自分を信じ、肩肘張り過ぎず、仲間と共に高め合える毎日を楽しんで教採に臨んでください。きっと結果はついてくるはずです。

大澄 彩花里さん

大阪府/静岡県 中学校 英語科

合格

外国語学部 4年生

人は人、自分は自分

こんにちは、関西外国語大学を3月に卒業する大澄彩花里と申します。卒業後は静岡県で英語教員として働かせていただきます。このたびは、後輩たちへ何かメッセージをとということで書かせていただくことになりました。私が伝えたいことは2つあります。

まず一つ目は、“共に戦っていく仲間を見つける”ということです。私は長期留学をしており、帰国後はすぐに教育実習だったため、一次試験までは全く時間がありませんでした。そんな時、同じ境遇にいる者同士で励ましあい少しだけ安心できたような気がします。まずみなさんに分かってほしいことは、不安なのはみんな一緒ということです。私だけ、と思うこともあると思いますがそんなことはないので安心してください。ゼミ活動は主に個人ではできないようなことに取り組みました。新聞記事を用いて行う英語・日本語ディスカッション、面接練習などです。大事なものは、それをした後のフィードバックです。例えば、面接練習中の自分では気づかぬうちにしていた癖や話し方などです。意見を言うときに遠慮など必要ありません。相手のことを思って率直に思ったことを言い合える関係を築くことが成長への近道だと思います。

二つ目は、“自分を認めてあげる”ということです。試験までの期間、苦しいときが山ほどあります。仲間と比べて劣等感を感じる時、どうしてもやる気が出ない時、そしてなぜ教師になりたいのか分からなくなる時、など気分の上下にとても苦しんだ記憶があります。その原因は何だったのか今思い返すと、自分と他人を常に比べていたことにあると思います。教職教養を何度やっても覚えられない、面接練習でも上手く意見をまとめられず、結局なにが言いたいのかわからない、そんなことが積み重なるとやる気で満ち溢れていた時期のモチベーションがどんどん下がってきます。しかし、みんな人それぞれ長所があるのです。みんなと一緒になくていいのです。自分で自分の長所が何かわからなかったら、友達、家族、先生に聞いてみましょう。意外な一面を発見できるかもしれないし、長所を言われて気分が悪くなるわけがありません。同時に自分の短所も聞いてみると面接でも使えることがあるのでいいかもしれません。そしてありのままの自分を認めてあげる、私は私、マイペースでやっていく、くらいの気持ちでいきましょう。

長々と書かせていただきましたが、これらは私の経験であって、みなさんはまた違う考えを持っていると思います。どうしても逃げたいと思う時があったら、無理せず時には休息をとることも大事だと思います。精神的な健康を管理できるということも、今後教員になる人間として必要な能力だと思います。自分は自分らしく、みんなで励ましあいながら頑張っていきましょう。これまで支えて下さった先生方、教職教育センターの方々、先輩方、後輩たち、そして一緒に勉強してきた仲間に心から感謝します。この経験を忘れず、4月から教員として一層頑張りたいと思います。ありがとうございました。

木村 恭子さん

大阪府 高校 英語科 合格

国際言語学部 科目等履修生

このたび大阪府教員採用試験に合格することができ、今まで支えてくださった先生方、サイズペと一緒にやってきたみなさんに感謝の気持ちでいっぱいです。私の経験をお話することで、少しでもこれから受験される方の不安な気持ちが晴れれば嬉しく思います。

私は教員採用チャレンジテストに合格し、一次試験の筆記が免除になっていました。チャレンジテストは教職教養のみの試験です。受験の3か月くらい前から学研都市キャンパスでサイスペに通いながら、参考書と並行して勉強を始めました。重要な部分はサイスペで仲間とともに勉強し、参考書でほかの部分の勉強することにしました。とくに法律の成り立ち、基本的な考え方などを理解すると、初めて見る問題でも臆せず解くことができました。

分厚いと戦意を喪失するので、参考書はできるだけ薄い本を選びました。問題と解説のみで構成されていて、過去問を使用しているものです。そして家でテレビを見ているときはずっと解いていました。電車の中で解こうとしたことがありましたが、満員電車に揉まれてページにファンデーションをこすりつけただけになったので、控えました。初見で正解した問題は二度と解かず、間違えた箇所のみを8回ほど解いて試験に挑みました。英語も基本的にこのように対策しました。

面接・スピーチ・模擬授業はサイスペに行かなければ、突破できなかったと思います。サイスペで仲間の意見のいいところや、西村先生のアドバイスをノートにメモして、そのメモを必ず活かすように逐一工夫しました。工夫した結果自分でもよくわからない受け答えになったこともあります。しかし、その失敗によって改善すべき部分が浮き彫りになることも多いので、より良いものを目指してとにかくやってみる、という姿勢で挑みました。こうした練習は一人では決してできなかったことでした。

自分では大阪府教育委員会のHPで、教育統計や基本方針、学校に対する指示項目などを読んで、試験官がなにを見ようとしているのかを考えました。教育に対する私の考えと大阪府の考えが少しでも一致する点を見つけて、それをアピールできるように短くまとめました。

自分は向いていないのでは、と合格へと伸ばした手を引っ込めそうになったときもありました。しかし、それは試験官がきめることであって、教員になりたいという私を咎める権利など誰も持っていないと言い聞かせて、明るいほうへ手を伸ばし続けた1年間でした。否定的で厳しい意見を受けることがこれからあるとは思いますが、肯定的で励ましの意見のほうがその何倍も価値があります。強い言葉に惑わされず、自分を信じ、励ましてくれる人を信じて、手を伸ばし続けてください。

二宮 瑞葵 さん 千葉県 中・高 愛知県 中学校 英語科 合格 国際言語学部 4年生
--

教員採用試験を終えて

この度、来年度から千葉県で教員として働かせて頂けることになりました4回生の二宮瑞葵と申します。私は大阪府と愛知県、千葉県を受験し、愛知県と千葉県で合格を頂くことが出来ました。思い描き続けてきた英語教員になることが出来ました。悔しくて泣いたこと、不安に押しつぶされそうになったこともありました。でも、私は辛いときに同じ志を持つ仲間が助けられたことや、みんなと過ごした楽しかった日々のおかげで何事にも情熱をもって粘り強く挑戦し続けることが出来ました。仲間にも感謝したいです。

採用試験で一番辛かった出来事は、大阪の一次試験合格発表の後です。私は実力を全部出すことができなかったので落ちていると思っていました。しかし私だけでなく他の仲間の番号もありませんでした。発表を見た後に、すぐにほかの県の二次試験対策を行わなければならなかったのですが、私はその時「努力しても何にも意味がない」と思い無気力になっていました。その時に西村先生が私を気にかけてくださり「努力しても意味ないっていうのはなんか悲しいと思わへん？自分の掴んだチャンスここでどう踏ん張ってみるかで決まるとちゃう？最後までがんばってみようや」というふうに励ましてくれました。私は初めて先生の前で涙を流しました。中宮キャンパスの友達もたくさん支えて

くれて、私はそこで全力を出し切ることが出来ました。今でも、なぜ受かるのかなぜ落ちるのか納得できていませんが、私はこの経験から、辛い時にも踏ん張りきる大切さを学ぶことが出来ました。人は何か踏ん張るときには仲間や先生のように支えてくれる人が必ず必要なんだと思いました。

私は本当に関西外大で教職をとってよかったと思います。この「出会い」で、私は教員採用試験に合格することが出来たと思います。毎日のように仲間と図書館でパワーポイントを使って笑いながら勉強したこと、サイスペのみんなと最後まで笑顔で励ましあい続けたこと、先生のポジティブさに助けられたこと、関西外大でなければ、味わえなかった感動と楽しさがありました。一人の力では受かることは絶対に出来なかったと思います。そして一人ではこんなに感動することはなかったと思います。私は、この先も関西外大に教職のパワーが引き継がれ、日本中に関西外大のパワーで教育をかえていければいいと思います。そして私も教員として、「自分らしさ」や「熱い粘り強さ」、「楽しさ」を忘れずに学び続けたいと思います。最後に、関西外大に感謝です。ありがとうございました。

<p>會津 瑛里果さん 千葉県 中・高 愛知県 高校 英語科 合格 国際言語学部 4年生</p>
--

みなさん、こんにちは。私はこの度、教員採用試験で2つの自治体から合格をいただくことができました。本当に長い道のりを経て、この「合格」まで辿り着くことができました。これまで支えてくださった先生方、友人、そして10年以上私を支えてくれた両親にはとても感謝しています。

今回この羅針盤でみなさんに①教員採用試験をこれから受ける方たちへ向けてアドバイス、②夢を想うことの大切さをお伝えしたいと思います。

まず、教員採用試験に向けての対策ですが、私は主に教職教養と面接の対策をしていました。教職教養は3回生の春学期から始めましたが、途中には5週間の留学もあったので、正直不安は大きかったです。それでも手を止めなかったのは、周りの友人が一生懸命に頑張り続ける姿を見ていたからだと思います。面接練習も思うようにいかなかったとしても、周りに励まされながら練習し続けました。

大きな試験に向けて勉強をしているので、不安になるのは仕方がないことだと思います。大切なことは、その不安をどう解消するかという策を持っているかどうかです。私の場合は、友人や家族に話すことでリフレッシュできたので、何か気分転換できることがあるかぜひ考えてみてください。

そして、私事ではありますが、少し小学生の頃の話を書かせていただきます。私は、小学校2年生からずっと教師になりたいと思っていました。先日母に「私が教師になれると思ってた？」と質問しました。その際、母からこんな話をされました。小学校3年生頃の私に「将来は何になりたいの？」と聞くと、「学校の先生！」と答えたそうです。しかし、母は私に向いてないと言ったそうです。それに対し私は「まだ何もしてないのにもう諦めろっていの？私は絶対先生になる！」と言い、それ以降母は私の進路についても何も言わず、いつも応援してくれていました。こうして10年以上経って今、念願の夢が叶いました。夢を見続けることは大きな力になるのだと、今になって強く思います。

また、それと同時に私を長い間支えてくれた親には感謝しています。これから教員採用試験を受けるみなさん。まずは自分を信じ切ってほしいです。そして、自分の夢を応援してくれている周りの人々を信じて、1人でやりきろうとせず、みんなで「合格」を勝ち取ってほしいです。

植村 仁美 さん 香川県 中学校 英語科 合格

国際言語学部 4 年生

この度、香川県の中学校英語科で合格を頂きました。この結果にただただ驚き、大変ありがたく感じています。これまで支えてくださった皆様に感謝申し上げます。

私は、就職活動と並行して教員採用試験の合格を手にすることができました。ここでお話しすることは教員一本で教員採用試験に臨む方にとって有益ではないかもしれませんが。就職活動と教員採用試験で悩んでいる方の少しでも手助けになればと思います。

私が教員採用試験を受験しようと思ったのは教育実習の最中、5月下旬でした。それまで全く勉強しておらず、たった2ヶ月しか残されていませんでした。教員志望の友人たちが熱心に勉強している姿を見て焦る気持ちもありました。その中で、自分なりに取り組んだこと、採用試験を通して感じていることについて述べます。

① 勉強を効率的に

時間が十分になかったため、香川県での出題頻度が高い項目だけ勉強しました。過去問とインターネットなどの補充問題を解き、教職教養を身につけていきました。幅広く取り組むのではなく、頻出のみに絞ったのは2ヶ月間で点数をとるためには有効だったと思います。しかし、このやり方はおすすめしません。時間があれば、と何度も思いました。そのような思いをしないためにも今からこつこつ対策してください。

また、私は以前から TOEIC 対策に取り組み、積極的に受験してきました。そのおかげで採用試験前は英語の勉強はほとんどせず、ほかのことに注力できたと感じます。できるだけ早くから TOEIC、TOEFL、英検などで明確に目標を決めて英語を勉強する理由を作って取り組んでみてください。それまで地道に英語を勉強してきたことが合格につながった大きな点だと感じています。

② 自分は自分

教員採用試験と就職活動に共通して、自分らしく取り組むことが大切だと感じました。それは対策しているうちも本番も一緒です。つい私よりはるかに知識を蓄えている友人と比較して落ち込んでしまうこともありましたが、しかし、「比較しても仕方がない。自分は自分。」と思うことで前向きに取り組む、本番に臨むことができました。面接本番で意識したのは「堂々と笑顔で。自信がなくても堂々と。」心がけてみてください。私にとってポジティブになれる言葉です。

合格を頂いたあとも、教員になるのか企業に就職するのか悩み、先生や友人に相談しました。いくら相談しても決めるのは結局自分でした。自分を信じて後悔しない選択をしてください。

教員採用試験と就職活動を並行するにあたり、不安でいっぱいでした。これは先生方や友人に支えられて得た合格だと思います。親身に支えていただきました。応援してくれる仲間を見つけ、前向きに自分なりに取り組んでください。後悔せずに納得いく教員採用試験になることを祈っています。

最後まで読んでいただき、ありがとうございました。

吉岡 幸輔さん

大阪府 高校 英語科 合格

国際言語学部 4年生

「出会いに感謝～一期一会～」

みなさん、はじめまして。4回生の吉岡幸輔と申します。今年度の大阪府教員採用試験を受験し、無事合格をいただくことができました。これまでお世話になった先生方や仲間へ感謝したいです。本当にありがとうございました。この場をお借りして教員採用試験に合格するために大切だと思うことを2点書かせていただきます。これから採用試験を受けようと思っている人、教職に興味がある人の参考になればいいなと思います。

1. 英語力

ピアノが弾けない音楽教師、泳げない体育教師…。みなさんはこんな先生についていきたいと思えますか？それと同じで英語の教師も英語の力が求められます。ですから英語の勉強はしっかりとやっておいてほしいと思います。私の場合は3年生の秋学期に入るまで、教職教養や面接の練習はしていませんでした。というのも大阪府ではTOEICやTOEFLで、ある一定の点数を取ってれば採用試験では面接と実技テストだけで済むからです。ですから3年生の秋学期までは英語の勉強だけに集中してもいいと思います。すると、採用試験の直前に「英語の筆記も、教職教養も一般教養も面接もやらんなあかーん!!!」とならなくて済むので、配点の高い面接に焦点をあてて対策をすることができます（これで他の人とかなり差ができています）。

2. サイスペ

英語には自信があった私ですが、教職教養や面接の対策なんてさっぱり…。そんな時西村先生が主催していたサイスペに参加しました。サイスペでは、主に教職教養と面接の対策をしました（西村先生が徹底的に面倒を見てくれます）。ただ、参加し始めた当初は周りのレベルが高く、ただ啞然とするばかりでした。しかし我慢強く出続けていると自分にも自信がつき始めました。もちろんこれは西村先生やサイスペで同じ教師をみざす仲間と一緒に勉強できたからです。もし、教員採用試験を受けようか悩んでいる人や、対策の仕方が分からない人がいれば、一度サイスペに行ってください（中宮の人もぜひ来てみてください）。西村先生がじっくり話を聞いてくれる上に、同じ道を目ざす仲間と出会うことができます。

最後に

偉そうにいろいろ書いてきた私ですが、教員採用試験を受けようか迷った時期もありました（自分が教師に向いていないと思ったからです）。しかし、西村先生に説得され受けることに…。結果は合格。真っ先に向かったのは西村先生の研究室でした。もし西村先生と話していなければ、そもそも西村先生がいなければ試験すら受けていませんでした。この場をもって西村先生には深く感謝します。そしてこの体験記が少しでもみなさんの役にたてればいいなと思います。

臺上 航大さん

千葉県 中学校 英語科 合格

国際言語学部 4年生

『Look around!! You have many supporters and you' ll be one of them.』

こんにちは。国際言語学部の臺上航大と申します。この度、採用試験を納得のいく結果で終える

ことができました。憧れの先生、同じ夢をもった仲間たちがいたからこそようやくスタートラインに立つことができます。本当にありがとうございました。

素敵な機会をいただきましたので、採用試験を受けるにあたって大切にしていたことを3点述べさせていただきます。これから採用試験に臨む皆さんがこれを読んで少しでも元気になってくれればと思います。

1. 外に出て行こう

学校での座学も大切です。教職教養などは理解して覚えるのにも時間がかかります。そんな時は是非外に出てボランティア等に参加してみてください。私は不登校支援を2年間経験させていただきました、台湾や仙台まで足をのび色々な方と出会いました。外に出て生徒と出会う、先生方と出会う。これ以上内発的にモチベーションを上げられることはないと思います。生徒、先生方と向き合うことで自分の理想としての「教師像」が見えてくると思います。

2. 自分と向き合うこと

皆さんには、仲間と呼べる人がいますか？どんな時でも励まし合える仲間ですが、学び合う中で自分と比べてしまうこともあると思います。そんな時は「自分は自分、人は人」と割り切ってください。僕にしかできないことがあるはずと。自分が外に出て感じたこと考えたことをどう生徒に伝えていこう？とたくさん自問自答を繰り返してください。ワクワクしてくると思います。ポジティブに自分と向き合って、メタ認知を高めて自分に磨きをかけていきましょう。

3. 全ては繋がっている

ゴールをどこに置くのか意識することはとても大切です。県大会を勝ち抜くことをゴールにしている部活と全国制覇を目指す部活では練習の質や量も変わってきます。今行っている英語の勉強やボランティア全てを将来の生徒の笑顔に向けてという意識で進めることで私は元気が出ました。採用試験のための学習や経験でなく、その一つ向こうを意識することで1日の時間の使い方、学習への姿勢が変わってきます！思い描いてください生徒の笑顔を！

シリーズ⑬「心の窓を少し開いて」

【学ぶ力の育成】

「健康で長生きしたい」と願うのは万人の思いです。健康長寿の秘訣は、睡眠・運動・食事にあると言われます。子どもの成長においても「生活習慣の確立」は学びに直結する大きな課題です。

文部科学省の「中高生を中心とした子供の生活習慣づくりに関する検討委員会」によれば、現代の中高生は、生活圏の拡大や行動の多様化等により生活リズムが乱れやすい環境にあり、生活習慣の乱れによる心身の不調により、様々な問題行動にも発展する可能性が懸念されています。

具体的には、スマートフォン等携帯電話の所有割合やインターネットとの接触時間の急増、夜型生活による睡眠時間の不足、朝食の欠食の増加などから学力や運動能力への影響、非行・不登校・ひきこもりなどの問題行動等のリスクの増加などです。

中でも毎日の食事は体を作る基本です。食事で大切なことは、食べたいという気持ちがあって食べることと、少しずつよく噛んで食べることです。

人間は、食欲のある時、体内から成長ホルモンが出て栄養が体に吸収され、少しずつよく噛むことで脳を活発化させたり、満腹度が増したりして過食になりにくいそうです。食事における食欲は最大の御馳走ですが、学力獲得も同じことではないでしょうか。学習意欲がなければ学力向上は難しいです。子どもに好奇心や疑問がある時、学びは深まります。

食事が進まない時は、体調が優れない、食材が古い、味や盛り付けや色合いが悪い、食事する環境が整っていないことなどが考えられます。

学習意欲が高まらない時も、体調が良くない、心配事がある、学習のねらいが不明確、教材教具が不適切、発問や板書の仕方が悪い、学習規律の乱れ、学習環境や学級集団が悪いなどが上げられます。食事も学びも「仕込み」に手間暇かけることが一番重要になります。

編集後記———教職教育センターより———

古来より桜は特別なものです。中学時代に覚えた百人一首にも、多くの和歌があったのを覚えています。

-ひさかたの 光のどけき 春の日に 静心(しづごころ)なく 花の散るらむ-
-花の色は うつりにけりな いたづらに わが身世にふる ながめせしまに-

花に自身の思いを投影したのでしょうか。

隅田川の花見は有名ですが、八代将軍徳川吉宗が庶民の花見を奨励したといわれます。植樹した桜をみるために、花見客で土手が踏み固められ、治水対策になったとか。

桜には色々な歴史を感じます。古の人々の思いを馳せ、花見をするのも良いですね。